

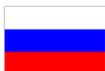


【韓国】 総合指数は週間で 11.6%安と大幅に続落、今週も軟調に推移か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 11.6%安と大幅に続落した。新型コロナウイルスの感染拡大や中国の経済指標の大幅な悪化を嫌気し、売りが加速した。米 FRB が 15 日に 1% の大幅利下げと量的緩和を決定したものの、かえって投資家の不安を煽ることとなり、リスク回避の姿勢が強まった。大幅下落を受け、先週も取引が一時中断される場面があった。外国人投資家の資金引き揚げの動きも目立ち、指数は 19 日まで 7 営業日続落。同日は 2009 年 7 月以来の安値で引けた。ただ、20 日は主要国の金融緩和や財政出動を好感して反発している。今週も軟調な展開か。国内外で新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、収束の兆しが見えない中、上値の重い展開が予想される。ただ、値ごろ感の出た銘柄を中心に買い戻しの動きも入るか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で 6.8%安と大幅に 5 週続落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 6.8%安と大幅に 5 週続落。新型コロナウイルスの世界的大流行が続く中、原油安も嫌気されて約 4 年ぶりの水準まで急落したが、その後は原油相場の反発で下げ幅を縮めた。週明け 16 日はブレント原油の急落でエネルギー株が売られ、指数は前営業日比 2.6%安。その後も売り優勢で、18 日は前日比 11.0%安と大幅に 3 日続落した。19 日も一時、2016 年 3 月以来の水準まで下落。ただ、原油相場の反発を追い風に株価も急反発し、前日比 8.5%高で引けた。20 日はロシア中央銀行が政策金利を据え置いたが、指数は 2.4%高と続伸した。個別では食品スーパーのマグニト (20.1% 高) が急上昇した一方、アエロフロート・ロシア航空 (13.0% 安) が軟調。今週は原油相場をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 6.8%安と続落、今週は世界的な景気後退懸念が重し

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 6.8%安と大幅に続落。新型コロナウイルスの大流行を受け、世界的に景気後退懸念が広がり、新興国からも資金流出の勢いが強まった。週明け 16 日は FRB による緊急利下げで新型コロナウイルスによる経済への影響の大きさが逆に意識され、4 営業日続落。17 日の続落後、18 日に小幅に反発したものの、週後半も連日で 2%超の下落となった。VN 指数は 18 日を除く 4 日間で下落し、20 日は 2017 年 4 月 25 日以来、2 年 11 カ月ぶりの安値で終えた。個別ではエネルギーのベトナム石油総公社や金融のティエン・フォン・コマースが 2 桁高だった半面、金融のベトナムバンクや不動産のビンホームズなどが 2 桁安となった。今週は新型コロナウイルスの感染拡大を受けた世界的な景気後退懸念が重しか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 14.5%安、中央銀行が 2 会合連続の利下げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 14.5%安と続落。世界同時株安の影響で大幅下落した。週初の 16 日は 2 月の輸出額が前年同月比 11.0%増と市場予想を上回ったが効果は薄く、指数は前営業日比 4.4%安と反落。17 日はサーキットブレーカーが発動されて、前日比 5.0%下落した。19 日は中央銀行の定例会合で政策金利が 0.25%低い 4.50%に設定されたものの買い材料にならず、5.2%安と 4 日続落。20 日は場中に一時、4000 ポイントを割り込んだが、終値ではこの水準を回復した。今週は国内の経済イベントが少なく、引き続き新型コロナウイルスの感染動向が指数を左右しそうだ。25 日は釈迦暦新年の祝日で休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 8.5%安、19 日に 10 年 8 カ月ぶりの安値を更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 8.5%安と 5 週続落。前週から下げ止まらず低迷した。週初の 16 日は前日に米 FRB が臨時の FOMC で事実上のゼロ金利政策に踏み切り、世界経済に対する緊張が高まった影響で指数は前営業日比 5.2%安と 3 営業日続落。その後も買い材料に乏しく下値を広げた。19 日には終値で 2400 ポイントを割り込み、10 年 8 カ月ぶりの安値を更新した。一方、20 日は中央銀行に当たる金融通貨庁が米 FRB と 600 億米ドル規模の通貨スワップ協定を締結した効果で、前日比 4.3%高と 8 営業日ぶりに反発している。今週は 23 日の 2 月の CPI に続き、26 日には鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.1%安、今週は中央銀行の緊急利下げに対する反応が焦点

SET 指数は週間で 0.1%安と小幅に続落。週末の上昇で下げ幅を縮めた。週初の 16 日は、政府が新型コロナウイルスの感染拡大対策として、教育機関の休校と娯楽施設の閉鎖を検討していると報じられた影響で指数は終値で前営業日比 7.3%安と反落。17 日は 14 日間の閉鎖と 4 月のソンクラーンの祝日延期の決定を受けて売られた。週後半は 18 日に反発した後、19 日は反落したものの、20 日は原油価格が上昇した効果で前日比 8.0%高と大幅に反発して引けている。今週は 20 日の取引終了後に発表された緊急利下げに対する市場の反応が焦点。2 月の貿易統計（通関ベース）と鉱工業生産の内容も注目される。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.1%安、中央銀行が法定預金準備率を引き下げ

クアラルンプール総合指数は週間で 3.1%安と続落。週初に 1300 ポイントを割り込んだが、週末の反発でこの水準を回復した。16 日は中国の 1-2 月の固定資産投資と鉱工業生産、小売売上高がそろって前年同月比で 2 桁減少したことが嫌気され、指数は終値で前営業日比 4.8%安。17 日は米ドル高リング安の進行、18 日は 2 週間の事実上の国境封鎖が始まった影響で下落し、19 日には終値で 09 年 10 月以来の安値を更新した。一方、20 日は中央銀行が前日に法定預金準備率を引き下げた効果で買い優勢となり、前営業日比 6.9%高と 7 営業日ぶりに反発している。今週は 25 日に 2 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。